（別紙4）　　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2191200035		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホームみのかもの憩		
所在地	美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191200035-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町３丁目７番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様が毎日穏やかに過ごして頂けるよう心掛けています。グループホームは自立支援という場でもあります。個々の利用者様にあった家事活動や運動、レクリエーションへ参加して頂き、役割を持ち活動していただくことにより一人一人の生活が充実したものとなるように支援していきます。また、そういった様子をSNSやブログ等でも公開しております。遠方にお住まいでなかなか面会に来れないご家族様からも、本人様のご様子がわかるとご好評いただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は見晴らしの良い高台に位置し、広いテラスには複数のテーブルセットが置かれている。街の様子が一望でき、リビングからの出入りは自由である。利用者の思いを定期的に聞く目的で、「要望表」を独自に作り、担当職員が時間のある時に4項目を聞いて書き留め、支援計画の見直し等に活用している。また、利用者に合った家事作業や運動、レクリエーションを企画し、充実した生活が送れるよう支援している。日頃の様子はSNSや施設ブログで公開し、家族にも情報提供をしている。職員間の協力体制もあり、技能実習生を受け入れて、和気あいあいとした明るい雰囲気の事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべての人の笑顔をめざして」という理念を共有し職員一人一人がそれを意識し業務に取り組んでいる。	「すべての人の笑顔をめざして」を理念とし、目にしやすい場所に掲示している。毎日の朝礼時に、皆で唱和し意識ながら支援にあたっている。日常業務の中でも、利用者の表情を観察しながら話しかけ、笑顔を引き出す工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加。コロナもあり思うように参加、交流ができなかった。	自治会に加入しており、祭りでは、利用者が子ども神輿の門付けを楽しんでいる。事業所は開設して1年足らずである為、地域との交流機会が少ない。今後、回覧板等を利用して、事業所の情報やイベントの紹介などを行い、交流の機会を作っていきたいとしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の運営推進会議の中でてた意見をもとに改善すべき点は改善するなどサービスの向上を目指している。	運営推進会議では、利用者状況、活動状況、事故報告やヒヤリハット等を報告し、参加者からの質疑に応えている。利用者と絵手紙でやり取りしたいとの家族の要望に、できることは積極的に取り入れていく方向としている。議事録は全家族に配布している。	運営推進会議では事業所の取り組みやイベント情報を地域に発信する機会と捉え、事業所が地域の福祉の拠点になれるよう、積極的な交流とサービ向上に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは運営推進会議の場で意見を頂いたり空室状況の報告やサービスについてのお話をさせていただき質の向上を目指しています。	行政担当者とは運営推進会議の際に現状報告や相談等を行い、助言を得ている。必要時には電話で担当者と相談し、サービスに活かすなど行政と協力関係の構築に努めている。行政から、BCPの研修案内等も届いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての委員会を設置し身体拘束を行わないケアの実施に努めています。	身体拘束適正化委員会は、担当者を決めて定期的に開催している。身体拘束に関する項目は重要事項説明書に記載している。議事録は全職員に回覧し周知している。今後は、定期的な研修開催と議事録回覧時職員のチェックを明記していくとしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	様々な虐待に関する勉強会を定期的に実施しています。虐待を行わないといい強い意志を持ちケアにあたっています。	虐待防止委員会を定期開催し、どんな行為が虐待となるかを話し合い、職員間で認識を新たにしている。職場環境や業務改善に取り組み、職員のストレスを少なくし、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての理解を深めるため勉強会を実施している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には充分に説明をし対応している。よく質問される点や分かりづらい点も事前に説明している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があげれるように施設内に意見箱を設置している。頂いた意見をもとにそれを反映、改善できるように努めている。	家族の意見は面会時や運営推進会議の際に聴いている。毎月発行している「みのかもだより」には活動や行事予定、利用者の写真は個別に載せ、担当職員が手書きメッセージと共に、請求書と共に送付している。絵手紙でのやり取りについても、改善に繋げている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や面談、業務改善について話し合う機会を作りスタッフ全員が働きやすい環境づくりに努めている。	毎月開催のフロア会議の前に、全職員が意見や要望等を書き出した上で内容を検討している。管理者は、職員の意見や提案等から、職場環境の改善やサービスの向上に繋げられるよう、皆で話し合い、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	希望の資格取得や興味のある研修に参加できる社内のスクール制度もある。料金も無料や割引で受講できる。保持資格や経験、責任能力に応じた給与体系をとっている。	社内スクール制度を設けており、本社主催の研修を順次受けられるようになっている。有給休暇の確保や休憩時間・場所も整い、勤務シフトも個々の希望を聞いて組んでいる。資格保有者、経験・能力に応じた給与体系がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修は参加できるよう通知しています。フロア会議では認知症や虐待、身体拘束に関しての勉強会も実施しています。	毎月のフロア会議では、年間研修計画に沿ってケアに必要な知識や技術の習得ができるよう学習会を行っている。現在、2名の技能実習生を受け入れており、職員の指導の下で、技能・言葉遣いなど、働きながらのトレーニングを行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の他施設との交流もありサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と密にコミュニケーションをとり、レクリエーションや家事活動等の役割に参加して頂きながら関係を構築している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様のお話に耳を傾けながら支援している。要望表もあるためそれらを活用しながら支援している。	利用者の要望を聞くための要望表があり、「職員に関すること」「食事に関すること」「レクリエーションに関すること」「その他」、4項目について、担当職員が毎月聞き取り、より良い支援に繋げている。本人の要望で、シャワー浴から浴槽での入浴へと迅速に対応したケースもある。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを通し、家族・クリニック・施設スタッフで課題などを共有しプランに反映させている。	同法人事業所と兼務のケアマネジャーが、週2回来所し、職員からの情報や毎月のモニタリングを参考にし、利用者の状況に即した介護計画を作成している。入浴支援方法の変更も、家族の了解を得て、計画の見直しに繋げている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことであっても記録をし日々の変化を把握できるように努めている。報告や相談など都度行い介護計画に生かしている。	介護記録は、タブレット端末で記録し、職員間で情報共有している。技能実習生も、タブレット入力作業はスムーズに行えている。 日々の記録と利用者情報を、計画作成者が職員と検討しながら見直しや次の計画に活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者様やご家族様と相談しながら可能な限り希望実現に向け支援している。	家族が受診同行できない場合や、理美容の訪問、買い物代行など、必要に応じて柔軟に対応している。希望者には歯科衛生士の訪問や理学療法士、音楽療法士などの支援も導入している。事業所は、さらに何か新たな活動を広げたいと考えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントに参加したり施設に来ていただき交流を図っている。それらを通して楽しみながら充実した生活が送れるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望に沿いながら連携しているクリニックへ相談等行えるようになっている。また、外部のHP受診の際も情報提供行い支援している。	契約時に、かかりつけ医について本人・家族に説明し、往診のある協力医への変更を勧めている。月2回の往診や薬剤師の訪問、週1回の看護師訪問があり、希望者には歯科医師訪問もある。緊急時にも、24時間安心な医療連携体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供を行っている。退院に向けて情報交換をし受け入れ態勢を整えている。	入退院時には、管理者が医療機関のカンファレンスに出席し、病院担当者と情報交換している。転院が必要な場合でも、家族と相談しながらスムーズに移行できるよう連絡を取り合い、安心に繋げている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、施設見学の際にグループホームという施設でできることに関しての説明を行い、ご家族様の意向を書面に残して看取り体制を整えている。	重度化や看取りについての指針がある。契約時に、終末期の支援は、事業所で出来る範囲の医療行為までとし、自然な看取りケアは行えることを本人・家族に説明している。看取り研修は全職員対象に実施している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例えば誤嚥や窒息の際どのようにして対応すべきか等勉強会や動画視聴し、常日頃から対応できるようにしている。緊急時に情報提供がスムーズに行えるよう利用者様一人一人書類を作成している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回災害想定の訓練を実施している。非常時には近隣の住民との協力を得られるようにしている。	年2回の災害訓練を行い、夜間想定や初期消火、避難誘導等を実施している。災害時に必要な備品や非常食を用意し、地域住民に協力を依頼している。夜間の火災において、一時避難所の確保や避難経路について、課題があると思われる。	夜間に単独火災等が発生した場合、一時避難所の確保や避難経路の確認、避難方法等、検討が必要と思われる。屋内避難経路を目立つ所に掲示し、迅速に職員が避難誘導を行えるよう、運営推進会議で話し合いながら、災害対策の更なる取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアや接遇・マナーに関しての勉強会も実施している。一人一人の自尊心に配慮した介護を行っている。	職員は、認知症ケアや接遇研修で学び、利用者の自尊心を大切にする支援を心掛けている。ホーム便りは、利用者毎に作成し写真は本人のみ掲載で家族に送付している。施設ブログやSNSは、同意を得て発信している。入浴や排泄支援で同性介助が難しい時は、可否を確認して対応している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを大事にしお話をしやすい環境づくりに努めている。要望表を活用している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のフローは決まっていますが、その時の状況や希望に応じて臨機応変に対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時に利用者様によってできること（混ぜる、盛り付ける）をいっしょにやっていただくようにしている。メニューに応じて追加で作ったり味付けを変更するなどしている。	配食サービス業者から食材が届き、職員が交代で調理して提供している。利用者も盛り付けなど、できる範囲で参加をしている。法人の管理栄養士が月2回来所し、意見交換しながら助言を受けている。行事食も取り入れ、利用者の食べる楽しみを増やしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量に応じて臨機応変に対応している。栄養士の訪問の際指導していただく。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方にはやっていただくが口腔ケア後口腔内を確認し、磨き残しなどあれば職員が支援している。ご希望があれば歯科の口腔ケアも行っている。歯科衛生士からの指導のもと口腔ケアを行っている。	利用者は、食事が終わると自発的に歯磨きをしている。一部介助が必要な人には職員が援助している。夜間は義歯を預かり、消毒と保管をしている。週1回歯科衛生士の訪問があり、職員は口腔内の管理・指導等を受けながら、日々、利用者の口腔ケア、清潔保持に努めている。	

岐阜県　グループホームみのかもの憩

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様一人一人、排泄の間隔やタイミングも変わってくるため臨機応変に対応している。できる限りご自身の力でトイレまで行っていただき排泄できるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回行っている。お声掛けして入りたくないと希望があれば、時間帯や日を変え本人様が納得し気持ちよく入浴できるよう支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況に応じて日中1時間程度居室で休息する時間を設けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイリングしいつでも閲覧できるようにしている。薬剤の変更があれば周知し申し送り行う。	分包された薬袋にQRコードがあり、食事の配膳盆の名札にもQRコードが印刷されている。服薬支援を行う職員がスマホで読み取り、本人確認した上で手渡しし、飲み込みまでを確認している。処方変更により体調変化があった場合は、速やかに看護師、医師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや体操、家事活動を実施している。また、レクリエーションは作業ではなく楽しみになるよう支援している。	洗濯物たたみや掃除など、利用者それぞれが自発的に行い、その人の役割として定着している。季節の作品作りは、やりたい人が楽しんで参加できるよう支援している。完成した作品は、リビングの壁や玄関などに展示し、やりがいや達成感につなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが天気の良い日は一緒に散歩を行っている。外出レクも企画している。ご家族様と外出し、一時帰宅や外食されることもある。	職員が付き添って、事業所周辺に咲く花や野菜の出来具合いを見ながら散歩している。また、広いテラスに出て、街の景色を眺めながら外気浴をする利用者もある。桜や紅葉の季節には、少人数ずつでドライブしたり、喫茶店にも出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で現金を使用する機会はなく金銭管理は行っていない。ご家族様や利用者様のご希望があれば支援は可能。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に利用者様の書いたお手紙を送らせていただいている。希望があれば施設から電話を掛けたり、取り次ぐことは行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示や工作の作品、花をおいて季節感を感じることができるように取り組んでいる。職員ではなく入居者様に併せてエアコン調整している。	リビングの壁面には、季節毎に利用者手作りの作品を飾り、玄関や部屋には季節の花を活けている。2ユニットの共有リビングに続く広いテラスからは、周辺の街を見渡すことができ、大テーブルでゆったりとコーヒータイムを楽しめる居心地の良い空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のご希望があれば居室で過ごして頂いている。食事席で過ごしたり、外の風にあたりたいとウッドデッキで過ごされたりしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学時、入居時にご本人様が過ごしやすい居室環境について説明し、使い慣れたものやアルバム等持ってきていただくことができることを説明している。安心して生活ができるよう支援している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂や、廊下には手すりが設置されており、安全に移動できるようにしている。また、トイレもわかりやすく大きく表記している。		

事業所名 ： グループホームみのかもの憩

作 成 日 ： 令和　7年　2 月　10 日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		大規模災害ではなく単独の小規模災害の対応策が難しい場面がある。	地域住民の方と連携し対応できるようにする。	災害が発生した場合他施設から応援を呼び、来るまでの間は地域の方に依頼し公民館を開けていただきそこに避難するなどの対応を協議する。	か月
2		入居者様の買い物がしたいというニーズに合わせたレクリエーションの提供ができていないことがある。現状欲しいものを機器ご家族または職員が買い物に行っている。	ニーズに合わせたサービスの提供	移動販売やカタログなどを使用し自身の目で見て選べる環境の提供。	2　か月
3		イベントやレクリエーション開催時に施設単独で開催していることが多い	地域の方々と連携し積極的な交流やサービスの向上を目指す。	回覧板などを使用し行事やレクリエーションの案内を出す。運営推進会議にてイベント告知。	か月
4					か月
5					か月

注1）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。
注2）項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。